

平成17年(昭和80年)10月25日(火)

東海の古代

第66号 編集・発行 古田史学の会・東海

代表 林 俊彦 〒461-0025 名古屋市東区徳川1-729

メール frttokai@zm.commufa.jp

電話/FAX 052(936)5012

郵便振替 00870-5-30752

岐阜の竹内さんは「筑紫」の表記をめぐってさまざまな考察を重ねています。古田先生の「邪馬一國への道標」で「宋書」の樂志にある「白紵舞歌」にふれているのを思い出しました。

東、扶桑に造りて紫庭に遊び、
西、崑崙に至りて曾城に戯る。

なぜチクシの字面に「紫」が使われているのか。日出ずる処にありとされた、東方の「紫庭」。この中国側の「紫庭」思想が関わるとされたのです。「筑紫郡紫村」もあったそうです。竹内さんの研究の進展を期待します。

東海の会の11月例会は古田史学の会事務局長の古賀達也氏に來名していただき、講演会を持つことになりました。会場も場所は同じですが、30名収容の広い部屋を用意しました。多くの方の参加を歓迎します。

九州王朝の近江遷都

わたしは、「古田史学の会・まつもと」から毎年のようにお呼びいただいて、松本市で講演をしています。そのほかにも、札幌や仙台、東京、大阪、松山、福岡などの各地で講演してきましたが、どういうわけか比較的近くの名古屋では講演をしたことがありませんでした。そんなおり、「古田史学の会・東海」の林俊彦さん(本会全国世話人)より講演依頼をいただきました。というわけで、11月6日(日)に名古屋で講演させていただくことになりました。

テーマは「九州王朝の近江遷都」。このテーマは、既に論文として『古田史学会報』61号

(2004年4月)に発表していますが、その史料根拠を15世紀成立の後代史料『海東諸国紀』においていたこともあり、古田先生からは面白い考えだが、考古学的痕跡などで証明できなければ成立困難と、かなり辛口の批評をいただいていた。そうしたこともあって、以後このテーマを取り扱うことに慎重になっていました。

そして今回、いよいよこの禁断のテーマに再度挑戦することにしました。名古屋の皆さんに聞いていただき、はたして「九州王朝の近江遷都」説は成立するか否か、ご判断いただきたいと願っています。(古田史学の会ホームページ「新古代学の扉」より「古賀事務局長の洛中洛外日記第37話」から転載)

11月例会に参加を

日程：11月6日(月)午後1時～4時半

場所：名古屋市公会堂第2集会室(2階)

内容：古賀達也氏講演会

演題：「九州王朝の近江遷都」

参加費：500円(維持会員は無料)

今後の予定

12月例会：12月18日(日)

例会は原則として毎月第2日曜日ですが、会場の都合等により変則的になる場合があります。日程をよく確認しお出かけください。特に今回は会場が第2集会室になります。

参加費は五百円(維持会員は無料)。古田先生とその学問に興味のある方ならどなたの参加も歓迎します。

古書即売会

オールデイズ古書即売会

最近の名古屋古書会館の古書即売会は、下記のように開催されます。

期間：11月4日(金)～6日(日)

時間帯：午前10時～午後6時(最終日は5時迄)

会場：名古屋古書会館

名古屋市中区千代田五丁目1番12号

TEL(052)241-6232 FAX(052)252-0992

(電話・ファックスは会期中のみ)